

龍山寺に思いを寄せて

2012年亜太商學興管理學術研討会（第7回日中経営フォーラム）開催報告

中山 健一郎

（札幌大学経営学部教授・学部長）

2012年10月19日、中国文化大學大孝館8楼において2012年亜太商學興管理學術研討会が開催された。昨年の第6回日中経営フォーラムより華東理工大学の海外提携校である、台湾の中国文化大學、玄奘大学の2校が新たな共催校に加わり、今回は台湾での初の開催となった。

日中経営フォーラムは、現代企業経営の諸問題についての研究発表、討論をおこなう国際的な学術交流の場として札幌大学経営学部と華東理工大学商学院（中国・上海）との間で2006年より継続的な研究交流をおこなってきた。第4回以降からは、両校から関連する研究領域に関して相互に発表者を出す形式が採られ、学術研究交流の質を高めてきた。今回もその方式が採用され、可能な限り関連分野に沿って日・中・台からそれぞれの研究発表者が配置された。今回の研究会では「不確実な環境下における企業経営と管理」という大会テーマのもと、4大学から合計27名が研究発表し、200名を超える学生や企業経営者、政府関係者が参加した。中国文化大學の理事長と学長の挨拶の後に全体会議がおこなわれ、引き続き3つの会場に分かれて研究発表と発表者に対する質疑応答が活発におこなわれた。

札幌大学経営学部からは5人の教授（中山健一郎、小山修、靄日出郎、明泰淑、汪志平）が参加し、以下の学術発表をおこなった。

- 中山健一郎 「裕隆汽車の自主開発能力構築過程」
- 小山 修 「模倣商品の知的財産権」
- 明 泰淑 「日本企業の成果主義と人事労務管理制度の現状と課題」
- 靄 日出郎 「日本における品質原価計算」

汪 志平 「組織能力と市場競争—日本家電産業の凋落的原因の探索」

今大会の名称は、従来からの日中経営フォーラムという名称ではなく、2012年亜太商學興管理學術研討会という新たな大会名称が用いられた。台湾での初の開催に加えて開催校としての事情があったものと推察されるが、事実上は第7回日中経営フォーラムにあたる。

今大会の大きな特徴としては、4大学から27名もの研究者が一堂に会したことから国際学会に相応しく、より学際的な研究交流が実現したことがあげられる。従来の経営経済分野、会計分野に加え、観光、原価計算、知的財産権、エネルギー開発、顧客満足、企業ガバナンスと投資分析、労働安全人事管理、市場分析、企業戦略等の9つのセッションが設けられ、論文集自体も360頁を超える分厚いものとなった。

今回、大会に参加したメンバーは大会前日に、台北において最も歴史のある龍山寺を参拝した。この龍山寺は1738年に創建され、274年もの年月の中で仏教や道教、儒教等の信教にかかわらず、学業・出世・恋愛・運勢・子宝・健康・金運等の御利益を叶えてくれる様々な神様を迎え、観音菩薩、文昌帝君・大魁星君、福德正神、天上聖母、註生娘娘、城隍爺、地藏王菩薩、關聖帝君、地藏王菩薩、月下老人をはじめとする大小100以上の神様が奉られるようになった。

このお寺は多くの観光客のほか地元の人たちの憩いの場にもなっており、私達一行は楽しい音楽に合わせて参拝客が経本を熱唱する珍風景に遭遇した。信仰する宗教や神様

は違えども、1つの音楽に合わせて経本を熱唱する姿に、今大会にもみられたような学際的広がりや学術研究交流の「共創」を重ね合わせる事ができた。

次回の第8回目は、2大会ぶりに2013年7月に札幌大学で開催する予定である。事実上は「日中台経営フォーラム」となるであろうが、4大学による学術研究交流はすでに新たな段階を迎えようとしている。単なる学部間交流の枠を超えて、大学間交流の段階に入りつつある。本学にとっては初の大規模な国際学会の開催になることは間違いない。今年から一学群として新たなスタートを切った札幌大学として記念すべき大きな大会となるであろう。